

高温がぶどうテラウェアの 休眠覚醒に及ぼす効果

ぶどうなど落葉樹が小春日和等の中途半端な時期に発芽すると後の低温で障害を受ける。そこで、落葉樹は冬を越さない内は適温を与えても発芽しないように休眠と呼ばれる防衛機能を備えている。

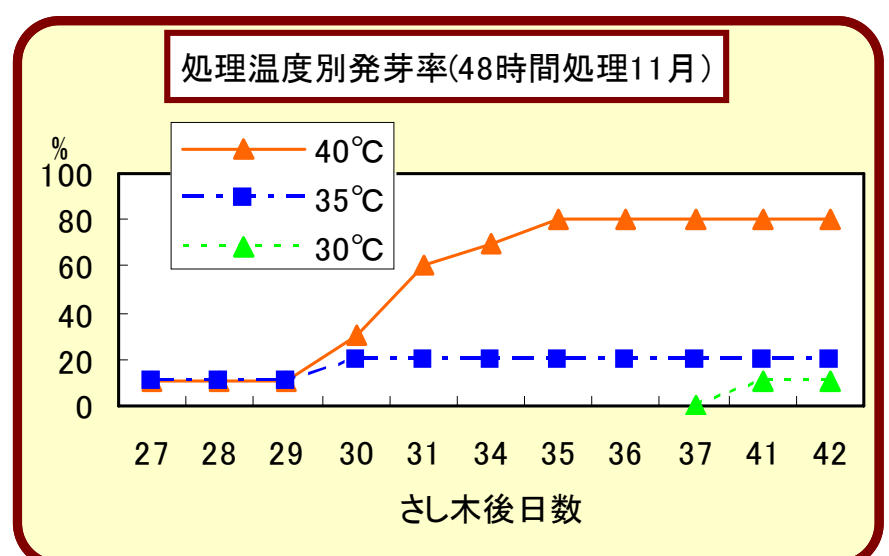
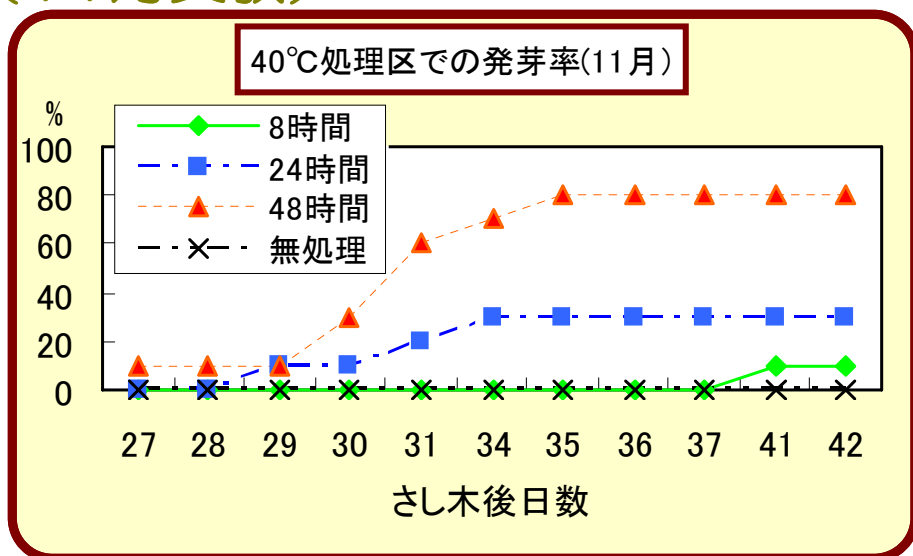
加温栽培ぶどうの作柄を安定させるためには確実に休眠覚醒を促す必要がある。ぶどうが休眠覚醒して正常に生育するためには摂氏7.2度（華氏45度）以下の低温に1000時間程度遭遇することが必要で植物生長調整剤によって遭遇時間がおおよそ半分に短縮できるとされている。ところが、近年温暖化が進み低温遭遇時間が短くなっており、低温による休眠覚醒は期待できなくなっている。

一方、高温も休眠打破に有効であると言われているがそのことに関する知見はほとんど公表されていない。

そこで、室内実験を行って高温もぶどうの休眠覚醒に効果があることを明らかにした。11月は40℃48時間で、12月は40℃24時間および35℃48時間処理で高い効果が得られた。

したがって、ハウス密閉後は無駄に換気せずに日光を利用して35℃程度の高温管理することが発芽促進、発芽揃いに効果的で作柄安定や省エネにつながる。

(11月実験)



(12月実験)

